英彦山宿坊・英彦山神宮の甦生を

経過のご報告

徳積

一般財団法人
徳積財団
TOKUTSUMI FOUNDATION

はじめに
甦生の進捗

現在、英彦山の宿坊の甦生に取り組んでいますがいつものことながら困難続きです。これまでの経験から概ね慣れてはきましたが、信じる心は変わらぬものの現実の対応には決断ばかりが必要で心身の疲労は蓄積していきます。

振り返ってみると、これまでも古民家甦生は無理難題の連続でした。当然ながら、費用の問題。大工さんや職人さんたちは一生懸命に取り組んでいますからそのお支払いが必要です。なぜ今まで何とかなってきたのかが不思議なほどで、その都度に知恵を出したり周囲の方々からのご

寄付をいただく中で何とかなってきました。

そして次に建物の問題。私がやるところは皆が手入れをやめて荒廃していよいよ最期かというところのものしかご縁がありません。中もぐちゃぐちゃで、木材などもシロアリ被害にあっていて思った通りに工事が進みません。

他にも私の無知からの不手際でご迷惑をおかけしたり、本業の仕事ができなくなりみんなに迷惑をかけたり家族との時間が減り家事を任せきりになっていたりと、いろいろとあります。

何よりも大変なのは、本質を守り続けるためにブレないで最後まで貫遂するための自分自身との正対です。

私が取り組むときに最初に決めるのは、「家が喜ぶか」「本物の和にしたか」そして「子どもに恥じないか」ということです。今回の宿坊はそれに加えて、お寺ということもあり「布施行を貫き仲間を増やし、“いのりの場”として子孫に繋ぐためのプロセスを重んじたか」と、取り組みの際の自戒を定めてやっています。

何度も費用のことや、楽にやろうとしたり、時間がないなかで時間を敢えてかける方を選択したり、ブレないで自戒を大事に守り取り組んできました。夜中に夢にうなされたり、山の中の寒さで冷え切り体調が著しく崩れたり、心ここにあらずで怪我をしてしまったり、ストレスで頭痛や胃腸を悪くしたりと、思っていた以上に堪えました。

しかし、そんな時こそ足るを知り、いただいている方を観て感謝すると同時に、信じてくれた自分や周囲の御蔭様に勇気をいただき前進してここまで来ました。周囲には、順風満帆で明るくやっていますし私自身も弱さを公開せずに徳を積む仕合せをこぼれさせようと顔晴っていますからなかなかこんなことを伝えることがありません。

むかしの諺に「武士は食わねど高楊枝」があります。これは誇り高い武士はどんなに貧しくても、腹いっぱい食べたかのように楊枝を使って見栄を張っていたというものです。これは見栄をはっていたのでしょうか？

実際には、江戸時代の武士の多くは今でいう政府や役所のお役人でした。彼らの多くは私利私欲に走ることなく世の中のため、民衆のためにと働いた公人でした。現代のように裕福でモノに溢れた時代もある中でも為政者としての武士の倫理規範をもち、無私の奉仕、誠実な生き様を痩せ我慢をしてでも実践した言葉です。

現代において、「価値がない」と大切な伝統が捨てられ、本物の文化が荒廃していくのを見過ごしたくはありません。私のように何でもない凡人でも、環境がなくても、真摯に取り組めば甦生はできるということをこの姿から何か感じてほしいと宿坊の甦生に取り組んでいます。

かつての山伏もまた、山で暮らし山を守り、日々に修行に精進して気品高く人々のために盡してこられました。私にとっての山伏は、先ほどの武士は食わねど高楊枝で尊敬する先人であり先達なのです。

その暮らしを甦生するためにも、私自身が同じ境地を少しでも感じたいとこの今も甦生に取り組んでいます。今回の宿坊の甦生、英彦山の甦生は、できる限り多くの方々のお布施や托鉢、そして英彦山を愛し、日本の誇りを甦生するための寄付をなるべく多くの一人ひとりから集めたいと願っています。

それが日本人の心のふるさとを思い出し、日本の初心を甦生させることになると信じているからです。途中経過になりましたが、今の私の心境です。皆様の心に何かが伝わり、一緒に徳を積むことの仕合せや喜びがこの社会をさらに磨き上げて素晴らしくしていくことをいのっております。

宿坊が甦生し、皆さんにお披露目できるのは新緑の頃になると思います。

ぜひ、この「いのりの場」に来ていただくご縁がありましたら心に懐かしい未来の美しい風景が宿りますことを念じております。残りの期間、しっかりと取り組みます。

英彦山甦生までの経緯

2020年11月
世界的な湿版写真家であり日本文化研究者のエバレットブラウンさんと出会う。宗像国際環境会議にお互い登壇していて、周囲の紹介でエバレットブラウンさんと意気投合し、聴福庵に来庵される。そのまま筒野権現の行場にて法螺貝

との邂逅がある。

2020年11月10日
京都にて法螺貝の修行。エバレットブラウンさんと京都の南禅寺の龍螺師の南先達に法螺貝のご指導を受ける。そのまま鞍馬寺にいき、エバレットさんと二人で雪の中、法螺貝の修行。鞍馬寺の本堂で一緒に法螺貝を奉納する。ここで英彦山のことを予感し、英彦山のことを祈願する。

2020年12月10日
ヤマップの春山さんとBAで語り合う。宗像環境会議で、私が座長をした座談会にヤマップの創業者春山慶彦さんが参加する。そしてその時の仲間たちと、BAの祐徳大湯殿石風呂サウナに入る。その時に英彦山のこと、巡礼路の復活のことで意気投合する。

2020年12月19日
エバレットブラウンさんと雪の英彦山を礼拝する。法螺貝をもって、英彦山の鷹住神社に参拝

する。英彦山の参道に大変感動し、ここはどの修験の山よりも素晴らしいと感銘を受ける。壮大に広がる山々を眺めながら、共に法螺貝の修行をここで行いました。英彦山には日本の原点があるとエバレットブラウンさんが予感します。この時、湿版写真を撮影してもらい、私の新著の「暮らしフルネス」で使うことになりました。

2021年３月4日
福岡県庁の岩岩コンビと出会う。県庁の岩尾さん岩下さんが聴福庵に来庵され英彦山の宿坊の甦生を強く勧められる。この時は、増了坊という鍋島藩の宿坊を甦生する話で最初はヤマップが宿坊を直し、私がその甦生のお手伝いをするという計画でした。ここから県庁の岩岩コンビとの幾度も英彦山行脚と英彦山甦生の打ち合わせがはじまります。

2021年3月11日
ついに現存する中で最古の宿坊、「守静坊」と出会う。英彦山の霊泉寺の高田住職から守静坊をぜひみてほしいといわれ見学。エバレットブラウンさんが一目で気に入り、ここで仙人をしたいという。この宿坊の坊主は長野覚先生という山伏研究の第一人者の素晴らしい方だとお聞きする。添田町役場の文化専門官の岩本さんと、観光課の斎藤さんにも出会い、守静坊の甦生の相談を開始する。

2021年4月
添田町の寺西町長、そして門前町同好会の松養さんと出会う。英彦山の宿坊の甦生について、寺西町長に意見を提案する。また県庁の岩岩コンビと添田の岩本さんらと松養坊の見学をする。また英彦山神宮へのご挨拶をし、ここで高千穂宮司さんと禰宜さんと出会う。

2021年5月1日
英彦山の甦生について英彦山神宮の高千穂禰宜とビジョンの共有。聴福庵にて、修験の甦生を志している高千穂禰宜と意見交換をする。英彦山への想いや、修行への熱意をお聞きし、胸を打つ。その場では、増了坊の甦生についてのプレゼン会を実施する。この時は、まだ増了坊をなんとかしようということでみんな心を一つにしていました。

2021年4月24日
徳積財団一周年記念イベントを開催する。徳積

堂カフェで、歴史研究家の福永晋三先生と、英彦山と古代史についての勉強会イベントを開催。徳積財団の最初のイベントは「古代からの徳を掘り起こす」ことで実施しました。講演の演題のメインテーマは、英彦山としました。ここで古代史に興味のある方や英彦山にご縁の深い方々が繋がりました。

2021年4月27日
飯塚で環境デザイン機構の佐藤さんと出会う。偶然、飯塚市の移住定住セミナーで添田町のビジョンを作成していた環境デザイン機構の佐藤さんと一緒に登壇する。この時は、まさか英彦山とご縁の深い方とは思いもよらず。後から、英彦山への今までの想いやむかしから熱心に手入れをされてきた方々をご紹介していただきました。こうやって人はつながっていきます。

2021年5月1日
聴福庵で増了坊の坊主、黒川親子と交渉する。松養さんも来てくださり、聴福庵で一緒に宿坊の甦生のためのプレゼンをする。この時は黒川さんの意向にはあわず、ヤマップ主導の増了坊再生の話は一旦白紙になる。ここから春山さんは英彦山への巡礼路の甦生に集中することになる。私も一旦、この英彦山の宿坊の甦生をお断りして飯塚の筒野権現の甦生に専念することになる。しかしそれから県庁の岩岩コンビがこの後も宿坊の甦生を諦めず、何度も何度も飯塚や英彦山に通ってきては打開案を考えてくる。そこで守静坊の長野覚先生とのご縁が誕生してきました。

2021年6月16日
守静坊の見学を県庁の岩岩コンビと行う。宿坊の甦生を諦めない岩々コンビのお二人から、ありとあらゆる方法がないか、どのように甦生するかなど情熱的な質問攻めに遭う。この時は、あまり乗り気でもなく筒野権現で忙しくて大変でした。ただ長野覚先生へのご挨拶と宿坊の甦生計画を立てました。

2021年6月30日
霊泉寺の修繕と喜捨をする。実は、私の名前はこの霊泉寺の先代のご住職が名付けてくださったものです。本来、広昭だったのを広明としたのはちょうど私が産まれて1週間で名前を悩んでいて相談にいったところアドバイスをしてくれたそうです。祖父が英彦山が好きで、幼い私をいつも連れてきてくれました。参道を駆け上がり自然に手を合わせて、英彦山にも拝んでいた記憶があります。

2021年7月3日
ついに守静坊10代目坊主、長野先生と出会う。添田の岩本さん、県庁の岩岩コンビとエバレットさんと一緒に、長野先生の福岡市のご自宅へ訪問する。坊家の話や修験の話、そして日本文化、山伏のこと、今までの経緯などを語り合う。ずっと気になっていた守静坊を徳積財団に託したいと、相談される。エバレットブラウンさんにも英彦山のことを頼みたいとお話がある。

2021年7月5日
筒野権現谷でエバレットさんと滝行をする。この滝場で荒廃していた建物を解体し、禊場の甦生をするために石風呂を建立しました。エバレットブラウンさんと出会ったこの場も4か月後にご縁のあった皆様のご尽力で見事に修繕できました。ここで40年以上、場守をされてきた植杉泉さんと出会い一緒に滝行をする。

2021年8月30日
英彦山神宮へ徳積財団理事長と事務局長と訪問する。高千穂宮司さんと禰宜さんと、今後の英彦山のこと宿坊のことについて語り合いました。また徳積財団で、守静坊を引き受けることを報告し、私も英彦山の甦生に覚悟を持って取り組む事を正式に表明しました。守静坊の甦生後、増了坊の甦生に取り組むことや、宿坊全体の甦生に取り組むこと、また上宮の修繕費用を財団で集めることなどを話しました。

2021年10月11日
長野先生との今生の別れ、守静坊の甦生がはじまる。長野先生が守静坊の行く末を案じながらもこの世を去ってしまわれました。色々なものを託され、甦生に向けて本格的に動き始めました。ちょうどこの頃、福岡県観光連盟との出会い、支援をしていただけることになりました。また文化庁に図面の提出し、ヤマップさんと巡礼路との連携について話し合いました。

2021年10月11日
高千穂禰宜さん御祈祷そして中の掃除を開始。守静坊にて、工事の安全と無事を祈願していただきました。神道の祝詞から、修験の勤行まで高千穂禰宜さんと一緒に行いました。膨大な荷物や、散らかった動物の糞などを片付け、仮の祭壇を設けました。不思議なことに福智権現の額が出てきたのでそれを中心にお祀りしました。まずは少人数で丁寧に家の中のものを外に出していきました。

2021年10月16日
大勢による2回目の大掃除、外のゴミを運び出す。宿坊の中の今までのゴミが大量にありましたが、場所が悪く車が入らずに困っていたところ、大勢の方々がボランティアとして参加し、片づけを手伝ってくれました。その中には、英彦山神宮の高千穂禰宜、宮司さん、霊泉寺の高田さん、添田町役場の職員さん、飯塚の和楽を甦生した時の結友、他にも友人たちが駆けつけ手伝ってくれ、中のゴミを運びだすことができました。

2021年10月18日
宿坊までの道をととのえる。大工さんや職人さんが工事に入るのにどうしても車が必要になり、砂利を入れて舗装しなんとか宿坊の手前までの道をととのえました。岩が多く、また落石も多く工事も大変でしたが、なんとか軽トラックが入れる道ができました。

2021年11月1日
お布施、托鉢を開始する。宿坊を甦生にするのに、どうしても工事費など多大な費用が発生します。私も人生ではじめてでしたがお布施と托鉢をはじめました。最初の托鉢先は、友人の御紹介で静岡県の富士宮まで訪問し感謝と報告をしてきました。不安の中、とても徳の高い方と出会い心が安らぎました。

2021年11月21日
大勢による3回目の大掃除。宿坊の屋根裏に、江戸時代からの山伏の暮らしで使っていた道具や遺品が出てきました。数百年の蓄積があり、煤汚れもひどくそれを運びだすためにみんなに手伝ってもらいました。また、場を清浄にするために備長炭を1トンと水晶などを敷き詰めました。道がなく、岩場の階段をみんなでバケツリレーで運びいれました。有難かったです。また木材と炭の搬入も行いました。たくさんの古文書やお椀、福智権現の額が出たり、御札お守り、歴史的な遺品を片づけました。

2021年11月29日から
建物の解体と本格大工工事。昭和の頃に大きく改装されたものを、江戸時代の初期の頃の間取りに戻しつつこれからの宿坊としてのお役目が果たせるように解体しながら家を診ました。シロアリにあちこち食べられていたり、屋根裏の傷みもひどく、かなり解体作業は難航しました。しかし病気と同じで根源を観てそこから直すのが私のやり方です。ここで茅葺屋根にすることを理事長と話して決定しました。

2021年12月10日
大勢による4回目の大掃除。解体作業で出た、大量の廃材の運び出しと家の周辺の片づけ、遺品整理をまたみんなが手伝ってくれました。毎回、30人から40人くらい集まってくださったので、本当に短い間に片づけができました。それに毎回、お昼ご飯に温かいお鍋をみんなで食べて笑顔も多く仕合せなひと時でした。ずっとこんな日が続いたらと思う大掃除でした。

2021年12月28日
長野覚先生の遺品を伝承する。長野先生の娘さんから、生前にいただいた言伝や志、遺品を伝承しました。具体的には、守静坊の伝来の神鏡、額、勾玉、そのほか歴史的な板戸などです。また墓前にお参りして決意と覚悟を誓いました。

2021年12月31日
祭壇を設け、鏡餅やしめ縄など年越しの祈祷。大工工事中ではありましたが、年越しだけは家が休まるようにと正月の御祈祷と室礼を行いました。玄関のしめ縄飾りも換え、かつて伊勢神宮の神域を甦生した太田小三郎さんに肖ろうと伊勢のしめ縄飾りをお祀りしました。

2022年1月5日から
雪の中の大工工事。いよいよ恐れていた積雪の時期が英彦山に訪れ、大雪でも道をかき分けて大工工事を行いました。家の中も氷点下で、手足もしびれる寒さの中で大工さんが一生懸命に工事をしてくださいました。これからの工事が大変厳しいものでした。

2022年1月15日
佐野畳屋さんと山を守る取り組み。それまで使われていた畳を解体して、その藁を枝垂れ桜の周辺に敷き詰めました。今までの御礼と、山で循環するための取り組みの一つのお手本にしようと捨てるのではなく敢えてそれを山に還すということを学生さんと一緒に行いました。

2022年1月24日
ＲＫＢトコワカにて、英彦山甦生の声掛け。宗像国際環境会議でご縁をいただいたＲＫＢさんから英彦山宿坊甦生のことを発信したらよいと番組を紹介していただきました。御蔭様で、アナウンサーの池尻さんやスタッフの方々にわかりやすく私たちの取り組みのことをご紹介していただきました。

2022年1月28日
枝垂れ桜の樹木医との出会い。今では有名な守静坊の枝垂れ桜ですが、かつては台風で傷み枯れかけていた時がありました。それを樹木医の宇佐美様がお手入れして甦生したことを聞きその息子さんとお会いしました。ずっと毎年、手弁当で枝垂れ桜のお手入れを長野先生と一緒にされていたそうで今の桜が咲くのはお二人の御蔭だと改めて感謝しました。

2022年2月4日
立春に、英彦山の甦生の座談会を実施。徳積財団主催で、飯塚の「場の道場」で英彦山神宮の高千穂禰宜、文化専門官の岩本さん、古代史研究の福永晋三先生、歴史研究者の白川先生、日本文化研究者のエバレットブラウンさんと私で「英彦山の徳」についての座談会を行いました。改めて、英彦山の甦生にどのような意味があり、どれだけの価値があることなのかをみんなで学び合いました。

2022年2月5日
大勢による5回目の大掃除。二階の天井裏にさらにむかしの煤汚れが溜まっていたのでそれを取り除く作業と、祭壇に使う大木をみんなで運び入れました。雪の降る中で、みんなで協力してたくさんの木材や資材などを運びました。お昼には「みそらぼ」の安藤さんやスタッフの方々が美味しい味噌鍋を振る舞ってくれました。

2022年2月6日
禅の雲水、星覚さんとの出会い。托鉢をしていく中で、托鉢のこと布施のことを学び合う時間をいただきました。一緒に筒野権現で座禅や法螺貝をしたり、私たちの取り組みを伝えるために必要な映像の撮影に協力していただきました。ここでいただいたお布施のことは忘れることができません。

2022年2月15日
茅葺屋根の準備のために萱を運び込む。伝統の茅葺職人集団の阿蘇茅葺工房の方々と一緒に萱の一部を宿坊に運び込みました。これから阿蘇に萱を刈にいくための段取りや、今後茅葺をする間の職人さんとの共同生活のことなどを打ち合わせしました。

2022年2月19日
人々が憩う囲炉裏の完成。宿坊の中心に囲炉裏を甦生しました。かつての宿坊の役割が果たせるように、今回は縁に使う木材もこだわり、また銅板を加工していただきました。この囲炉裏は、人々を笑顔にする場所になり、それを見守る仙人たちがいるように周辺をデザインしました。

2022年2月22日
いのりの場の甦生。これからもう一度、人々が祈りをし安らぐ場ができるように祭壇を甦生しました。祭壇の木には、福井県の永平寺からきた伝統の木材、また上野焼総本家の渡様から喜捨いただいた福地権現の隣にあったご神木の材、そして壁面には守静坊で檀家さんを見守ってきた板絵を張り込みました。これから、大勢の人たちがこの場所で祈りを捧げ、皆さんが仕合せになることを見守り続けることになると思います。

終わりに

英彦山に関わっていると、今まで知らなかったこと、繋がらなかったご縁と結ばれています。歴史は、結ぶ人たちがいることで顕現して甦生してきます。宿坊の甦生から新たな物語が繋がってくることに仕合せを感じます。

伊勢神宮に多大な貢献をしたある英彦山の山伏がいることを知りました。

名を、太田小三郎といいます。この方は、伊勢のまちの近代化に尽力した人物として有名で弘化3年(1846)、豊前国英彦山の鷹羽寿一郎の三男として誕生しています。この鷹羽家は代々豊前英彦山の執当職を担った家柄でした。お兄さんは明治の維新の志士で活躍した鷹羽浄典です。

明治5年(1872)初めて神宮に参拝し、ご縁あって古市の妓楼「備前屋」を営む太田家の養子になり、そのまま傾いていた太田家を立て直し、竟には今の伊勢神宮を守った人物です。

当時の伊勢神宮は、宮の中に民家が入り込んでいて神宮の尊厳と神聖が保たれている状態ではありませんでした。そこで彼は「神宮の尊厳を維持し、我が国の象徴である神宮とその町を、国民崇拝の境域にすべき」と方々に呼びかけ同志を募り明治19年（1886）に財団法人「神苑会」を結成しています。

そして多くの寄付やお布施を集め民地を買収し、すべての家屋を撤去して宇治橋から火除橋までを「神苑」として修繕していきました。現在、内宮の宇治橋を渡った先に広がっている聖地の清々しい場が醸成されたのはこの時の徳積みがあってのことです。

「神宮の尊厳を維持し、我が国の象徴である神宮とその町を、国民崇拝の境域にすべき」の理念は、そのまま英彦山宿坊の甦生でも活かすことが出来る大変参考になる考え方です。今、伊勢神宮があれだけの聖域になりいつまでも国民に深く愛され信仰の聖地となっているのはこの理念と実践があったからであり、今でもその理念が受け継がれているから伊勢は美しい信仰の聖地として燦然と輝いています。

今、英彦山は同じように大変な憂き目にあってもいます。水害にも遭い、山は荒れて参道周辺には廃墟のような空き家が目立ち、これから神域の雰囲気がますます失われていく気がします。そうならないように、本来此処はどのような場であったのか、そして日本人にとってここがどのような場であったか、それを思い出し甦生する必要を感じるのです。

私たちの尊厳とは、先人たちの遺してくださった大切な灯でもあります。それを守るためには、私たちがどのようにはじまり、どのように暮らしてきたかという歴史を守ること大切であ

り、それはまた日本人そのものを甦生していくことでもあります。

こうやって先人の山伏のお手本があることを心強く感じています。私もこの伊勢神宮での取り組みをベンチマークして、英彦山をかつてのような聖人たちが暮らす聖域にしていくために失われた歴史と文化や暮らしを宿坊の甦生を通して実現していきたいと思います。

この取り組みで、1000年後の子どもたちに先人からの願いや祈り、そして真の居場所ができるように徳を積んでいきますので引き続きどうかよろしくお願いします。

徳義金のお願い

宿坊の甦生には、多大な費用がかかります。何でも最初が本当に大変で、知られていないこともあり資金がどうしても集まりません。現在も、一生懸命お手伝いいただいている職人さんや業者さん、関係者の方へのお支払いが必要で借入によって乗り越えております。お布施行は、仕合せなので苦労も喜びですが寄付は非常に有難く、周囲の方々への安心にもなります。

英彦山の宿坊の甦生は、本来はお寺ですので多くの皆様からの少しずつの喜捨で甦生できることが真の喜びでもあります。奈良の大仏を建立した東源上人のように小さく偉大な真心が皆様から集まり美しい日本人の甦生に繋がればと願っております。

※お振込みによる義徳金をお願いしております。一口　一万円より

振り込み先：福岡銀行
店名：二日市支店
店番：275
預金種目：普通預金
口座番号：2211702
名義：一般財団法人　徳積財団
代表理事　野見山正秋
ザイ）トククツミザイダン
ダイヒョウリジノミヤママサアキ

茅葺屋根の葺き替えのお誘い

英彦山の宿坊、守静坊の甦生もあと少しとなりました。終盤に入れば入るほどに多くの方々からのご支援や見守りに感謝する時間が増えていきます。最初はどうなるかと思いましたが、費用面などは解決していないものの建物の方は見

事に甦生してきました。初心を忘れずにここまでこれたこと、そして家も本当によく頑張ってくれています。こういう機会を与えていただけたことに何よりも深く感謝しています。

これからいよいよ宿坊から人の繋がりの方に入っていきます。

その第一の取り組みとして宿坊の屋根を今のトタンから本来の茅葺屋根に戻すという作業がはじまります。そもそも現代からすれば逆行するように見えて、周囲も予算がないのに何でこんなことをといわれますが私にとってはこの茅葺屋根の甦生こそ宿坊の原点回帰になると信じています。

そもそも屋根というのは、家の最も大切な場所です。屋根の御蔭で私たちは暮らしを安心して営んでいくことができます。その屋根に何を据えるのか、そしてどのように屋根をつくるのか、これが大切なことなのです。

私たちは古来より、人のつながりの中でみんなで助け合ってここまで生き延びてきました。決して一人では生きてはいけません。いくらこの世が個人主義になって自分が自分がと前に出ても実際には誰も一人では存在できません。だからこそ、私たちは社会を創っているともいえます。

今、コロナや戦争でどこか影を落として心身も少し元気がありません。こういう時だからこそ、みんなで助け合うという場が必要で、そのことに由って社会もまた明るく清らかになっていくように思うのです。

私たちは古来から、穢れを祓うという精神性を持っています。どんよりしても、また清らかに素直に明るくいようとみんなで和気あいあいと一緒に利他に生きる喜びを楽しむのです。

茅葺屋根は、むかしは村のみんなで持ち回りで何年かごとに村人総出で屋根の葺き直しを手

伝っていました。新築であれば、みんなで祈り棟上げをし村のみんなで子々孫々まで発展していけるようにと祈りました。

こういう日本人の心の原点の中にこそふるさとはあります。

私が、ふるさとを甦生するときは必ずこの茅葺屋根を葺いていた時代の「結」（ゆい）を思い返してその風景を甦生するところにこだわるのです。今回は、親友の阿曾茅葺工房の植田さんのところで茅を刈り取るところからみんなで参加したいと思います。

阿蘇は茅があるから懐かしい風景が残ります。野焼きによってまた見事な茅ができます。西の横綱とも呼ばれる阿蘇の茅は丈夫で美しいのです。この暮らしの営みの中で茅葺屋根にすることは、単に私たちが原点回帰するだけではなく、心のふるさとを思い出すことによって元氣をいただけるように思います。

そしていよいよ4月2日には、みんなで英彦山の守静坊で茅葺屋根を葺き替えます。英彦山が心のふるさとになるよう甦生し、その懐かしい未来の姿が日本全体を元氣にしていく種火になっていくことを願っています。

お布施行をご一緒できるのを心から楽しみにしています。

一期一会　野見山広明

日時：2022年4月2日（土）9時半より
場所：英彦山守静坊（集合は、英彦山銅の鳥居前に9時）
お昼は、竈ごはんを準備しています。

守静坊
2022年3月現在の様子